6
第４次計画実施事業

※のついたものは、28ページ以降の用語説明をご覧ください。

基本目標 1

あなたの声に気づき、つながれる基盤づくり

第1WG

なぜ必要なのか

多様な人がいるなかで、**複合的な課題**(※1)を抱える世帯や困っている人がいるにも関わらず、必要な支援につながっていない場合がまだまだあります。福祉サービスや**社会資源**(※2)についてなど、必要な情報が届いていない人もいます。そのため、「あなたの声に気づき、つながれる基盤づくり」が求められています。

取組みのポイント

困りごとを抱えた人の声に気づき、必要な支援につなぐことができる基盤をつくります。また、必要な人に必要な情報が伝わるしくみをつくります。

取組方針 （1）どこかで誰かが“あなたの声”に気づけるしくみをつくる

あらゆる場面で困っている人の声に気づき、その相談者の思いや困りごとを受け止め、必要な支援につなげるしくみをつくります。

取組事業 ① 巡回する相談チームづくり

複合的な課題にも対応できるように、様々な専門職や地域住民が連携して、**北区障害者基幹相談支援センター**(※3)が先駆的に取り組んでいる地域への巡回相談の活動をさらに充実させます。

地域の中には様々な困りごとを抱えている人・世帯が存在します。

北区障害者基幹相談支援センターが実施している巡回相談の様子

年次計画スケジュール

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
検討	試行実施	実施	→	→

取組事業 ② あなたの声に気づける先一覧の作成と活用

困りごとに気づき、必要な支援につないでくれる北区の社会資源（例：店舗・事業所、医療機関、学校、地域団体(※4)、サロン(※5)など）を発掘し、一覧を作成し活用します。また、その過程でつながった社会資源と連携できる関係を築いていきます。

年次計画スケジュール

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
調査 発掘	順次 作成・活用	→	→	→

関連する取組事業

④ 研修会、交流会、情報交換会を開催する

⑪ あなたが困りごとを身近に相談できる人・場づくり

取組方針 （2）誰にでも情報が伝わるしくみをつくる

情報発信の方法が多様化してきている一方で、相談に来れない方や情報が受け取りにくい方など、必ずしも必要な情報が伝わっているとは限りません。そこで、専門職や住民など多様なメンバーが集まって、必要な人に必要な情報が伝わるにはどのようなしくみが必要なのか検討し、実施します。

取組事業 ③ 必要な人に必要な情報が伝わる福祉情報の発信

北区ではいまどのような福祉情報がどのような方法で発信されているのか現状を把握します。さらに、求められている情報の内容や必要な人に伝わる方法を検討し、実施します。

年次計画スケジュール

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
現状把握 検討	内容や 方法の検討	実施	→	→

基本目標 2

“困りごと”みんなで解決する基盤づくり

第1WG

なぜ必要なのか

多様な人がいるなかで、複合的な課題を抱える世帯や人が増えており、困っている人がどこに相談したらよいのかわからないことや、一部の専門機関のみ、住民のみでは解決できないことも多くあります。そこで、困りごとをみんなで解決する基盤づくりが求められています。

取組みのポイント

専門職や住民などがつながる機会を設けます。そして、ただつながるだけではなく、困りごとが出てきたときに連携して解決していくためのしくみを作ります。

専門職や住民などがお互いの役割を知ること、顔がつながることによって、困りごとを解決する際に互いの強みを生かして支援することができるようになることを目指します。

取組方針 （3）複合的な課題に対応していくためのつながりをつくる

専門職やボランティアに加えて、住民、企業、学校などとのつながりをつくる機会を設けます。

取組事業 ④ 研修会、交流会、情報交換会の開催

専門職や住民などが互いのことを知り、つながるきっかけとして、研修会や交流会、情報交換会のような場を設けます。

年次計画スケジュール

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
内容や方法の検討	試行実施	実施	→	→

関連する取組事業

② あなたの声に気づける先一覧の作成と活用
⑤ 相談を受けて解決につなげるための協議の場づくり

ボランティア、福祉関係者、地域団体活動者で実施した「北区みんなで交流会」の様子

取組方針 **（4）つながりを困りごと解決のために機能させるしくみをつくる**

専門職や住民などがただつながるだけでなく、連携して困りごとを解決できるようなしくみをつくります。

取組事業 **⑤ 相談を受けて解決につなげるための協議の場づくり**

複合的な課題を抱えた世帯や人などについて、専門職や住民などで集まって協議する場を設けて解決につなげます。

年次計画スケジュール

2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
—	内容や方法の検討	試行実施	実施	→

関連する取組事業

④ 研修会、交流会、情報交換会の開催
⑫ あなたの困りごとを一緒に考える場づくり

基本目標 3

知り合い助け合える人づくり

第2WG

なぜ必要なのか

近年、ご近所同士のつながりが希薄化することで孤立死や貧困、虐待や8050問題(※6)などの社会問題にもつながってきています。そうした状況を「我がこと」と捉えられずにどこか他人事ととらえがちな風潮もあります。まずは互いが知り合うことで、そうした問題を「我がこと」と捉え、地域に目を向けることが解決に向けた第一歩だと考えます。そのため災害時などに備えることも含め、互いが助け合える地域となるよう普段からコミュニケーションを取り合う大切さを知った上で、つながることが必要です。

取組みのポイント

地域に住む様々な困難を抱えた方の存在を知っていただき、住民のみなさん自身が地域で何ができるのかを主体的に考える機会を設けることで、ふだんの暮らしの中で声をかけ、お互いに助け合えるような人を増やしていきます。

取組方針 （5）地域の理解者・協力者を増やす

地域の中で声を出せていないような方も、気軽に挨拶できる地域となるように、様々な困難を抱える方への理解者を増やします。

取組事業 ⑥ いろいろな人が地域にいることを知る機会の提供

各小学校区や町内会ごとで、地域にいる様々な困難を抱える方についての理解を深めるための講座や座談会などを実施します。

こころの病の普及啓発に関する出前講座
（小学校区民生委員児童委員対象）

年次計画スケジュール

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
現状把握・プログラムの検討	チラシの作成・試行実施	広報・実施	→	→